

千四百年御聖忌記念特別展

「聖徳太子 日出づる処の天子」

一．概略

令和四年（二〇二二）は、聖徳太子（五七四〜六二二）が薨去して千四百年忌にあたる。「千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子 日出づる処の天子」はその記念として、令和三年九月四日から十月二十四日まで開催された展覧会である。

令和三年から四年にかけて、全国各地の太子ゆかりの寺院では聖霊会をはじめとし、その偉業を偲ぶ法会が催されている。その筆頭たる和宗総本山四天王寺（天王寺区）は、この百年に一度の節目を特別に「御聖忌」と呼び、令和三年十月十八日から翌年四月二十二日まで「聖徳太子千四百年御聖忌慶讃大法会」として、約半年にわたる法要を行なっている。推古天皇元年（五九三）に太子により建立された同寺は、大阪が誇る古刹であり、当館にとっては偉大にして親しみの深いお隣さんでもある。

本展はその四天王寺から、作品出展や学術面などの全面的協力を得て、同寺の視点から太子が祈りの対象として崇拜されてきた歴史を現代まで辿ろうとするものである。なぜこれほどまでに信仰されてきたのか、太子になじみがない方々にもわかりやすく伝えることを目標に展示を考えることとした。

なお展示構想をはじめ出展交渉などは、齋藤龍一主任学芸員と共に行い、四天王寺の歴史や作品については同寺勧学部文化財係主任



エントランス



ホール

の一本崇之氏、同係の渡邊慶一郎氏に助言をいただいた。

本展（大阪会場）での出展件数は総数一八一件、うち国宝八件、重要文化財四十件を数え、近畿を中心に北は宮城、西は山口までのゆかりの寺社、個人、博物館から出展をいただいた。

展覧会（大阪会場）の主催者は四天王寺、日本経済新聞社、テレビ大阪、そして大阪市立美術館の四者である。当館を立ち上げ館とし、その後サントリー美術館へ巡回した（東京会場／令和三年十一月十七日〜四年一月十日）。

末尾に本展の概要をまとめて記載した。やや煩瑣な情報も多いかもしれないが、今後のために記しておく。

二．展覧会構成

展覧会の構成は全五章とした。サントリー美術館では会場キャパシティの点から、第四章を省いて再編成し全四章構成にしている。

出展作品は両館で異なり、それについては図録の「出品目録」に掲載してある。

【第一章】

聖徳太子の生涯―太子の面影を追って

【会場】

南一階第十室、十一室

第一章は聖徳太子の生涯を紹介する章とした。現代は太子が印刷された紙幣が流通していた頃に比べ、太子は馴染み深い存在ではなくなってしまうている。そのためまずはどのような事績を残した人物かを伝えるよう試みた。準備段階の初期から決まっていた方針である。



第1章展示室

その手段として、中世に数多く制作された聖徳太子絵伝や、様々な年齢で表された太子の彫像などを並べることとした。代表的な太子絵伝を前期に三セット、後期に三セット並べ掛け、場面解説パネルを用意し、その生涯への理解を促した。また太子が所持したと伝わる飛鳥時代の品々や、太子の足跡を物語る彫像、伝記類を合わせて展示し、人物像にスポットライトを当てた。

十七条憲法の制定や遣隋使派遣など、政治的な側面で知られることが多い人物であるため、絵伝で語られる数々の仏教的な事績については、一般の方にはとても意外に受け止められたようだ。

【第二章】

聖徳太子信仰の広がり―宗派を超えて尊崇される太子

【会場】

南一階第十二室、十三室、南二階第十八室

第二章は聖徳太子が信仰対象となり、様々な宗派の立場から尊崇されてきたことを紹介する章とした。

太子は日本に仏教を広めた人物として、没後まもなく信仰の対象となった。代表的なところでは、平安時代に日本天台宗の開祖・最澄、鎌倉時代に浄土真宗の開祖・親鸞や、律宗の開祖・叡尊などの錚々たる高僧に信仰された形跡がある。

ここでは中世に制作された太子の絵や彫像を、童形（二歳の姿）、童形（少年の姿）、摂政像、勝鬘経講讃像に可能な限り分類し、太子の成長を追うような流れで並べ、制作主体（宗派）がわかる場合にはその紹介を行なった。



第2章展示室

一方で個人の太子信仰に基づき制作された歌、あるいは信仰がうかがえる絵などを展示し、様々に体现された太子信仰を紹介した。慈円撰「拾玉集」（難波百首）、親鸞筆「皇太子聖徳奉讃」などがそれぞれである。

【第三章】

大阪・四天王寺の一四〇〇年―太子が建立した大寺のあゆみ

【会場】

南二階第十七室、十六室、十五室

第三章は、四天王寺が聖徳太子信仰の拠点として信仰を継承、発信し続けてきた寺であること、また太子信仰から展開した多様な信仰を包摂する寺であることを、同寺伝来の作品を中心に展示し、紹

介する章とした。

ここで展示した作品はバラエティに富む。境内全体から、太子を祀る聖霊院の絵堂、救世観音や四天王を祀る金堂、太子の遺髪を埋めたと伝わる五重塔、浄土信仰の霊地である西門などまで、各建物とそれに関わる作品を展示することで同寺の説明を試みた。

例えば西門関連では、同寺支院の一つ施行院の本尊「聖観音立像」の出展が叶った。西門の鳥居の軸木で制作された像であり、本展に出展いただいた作品の中でも最も珍しい作の一つであろう。

また、平安の美が結晶した「扇面法華経冊子」などの四天王寺の名宝や、同寺の度重なる再建を物語る金剛組所蔵の金堂や五重塔の側面図を展示した。

【第四章】

御廟・叡福寺と大阪の聖徳太子信仰―太子が眠る地

【会場】

北一階第四室

第四章は大阪、特に河内を中心とした地域の寺社が継承してきた聖徳太子信仰を紹介する章とした。

大阪府下には太子ゆかりの地が点在し、信仰を守り続けている寺社が数多く存在する。叡福寺、野中寺、大聖勝軍寺の河内三太子などはその代表格である。特に太子の廟前に建ち、その廟を守り続けている叡福寺は、太子信仰の一大拠点として古くより参詣を集めてきた。ここでは河内三太子をはじめとした寺社に伝来する作品を中心に展示した。特に叡福寺の「五ヶ所御廟絵図」や「叡福寺境内図」な



第3章展示室



第4章展示室

どは、太子廟の存在を知らない人の目には新鮮に映ったものと思われる。また、本展を機に河内三太子をはじめ知った方々も多いようであり、担当者として嬉しい限りであった。

【第五章】

近代以降の聖徳太子イメージ：そして未来へつながる祈り

【会場】

①北一階第三室、②北一階第五室

第五章は①と②の二つのパートに分かれる。①は近代以降における聖徳太子のイメージを辿るパートとした。日本画家・堂本印象筆「聖徳太子像・二王子像（唐本御影模写）」や七種の紙幣の展示を通じて、唐本御影に基づく太子イメージが近代以降に世に浸透したも



第5章①展示室



第5章②展示室

のであることを説明した。

また同室内に、一九八〇年に発表された山岸涼子による太子を題材としたマンガ「日出処の天子」の原画を並べた。同作は愛に悩む一人の人間としての太子を描くもので、唐本御影ベースの太子イメージが流布する中、革命的な太子イメージとして、当時世間に与えた衝撃は大きく、新聞を賑わすほどだった。太子イメージが一つではなく、変化してきたことを伝えられたつもりである。原画の前で涙する来館者もあり、マンガの威力を感じる展示となった。

②は四天王寺において、毎年四月二十二日（旧暦二月二十二日）の太子命日に脈々と続けられてきた、太子の御霊に捧げる法会・聖霊会^{りょうえ}について紹介するパートとした。

聖霊会で用いられた桃山や江戸時代から現代の装束にはじまり、令和三年に開眼供養されたばかりの四天王寺所蔵の「太子童形半跏

像」を展示し、未来へ続いてゆく太子への祈りを感じてもらうことを目的とした。

なおこの展示室を華やかに印象付けた二基の舞台用曼珠沙華は、天王寺楽所雅亮会の吉光信昭氏の紹介で、関西舞台株式会社より借用したものである。曼珠沙華とは、聖霊会で石舞台の四隅に立てられる赤い作り物のことを言う。

以上の全五章により太子信仰の流れとその広がりを追う構成とした。本展を通じて、過去から現在、そして未来へつながる太子への祈りへ想いを馳せてもらえていたならば本望である。

三．展覧会を終えて

本展は当館としては「山の神仏」展以来、約十年ぶりの大規模な日本美術展となった。ツイッターに、展示が多すぎたために最後まで見切れぬままに閉館となってしまった、全部を見るのに五時間かかったなどという来館者の悲鳴があがっているのを会期中よく目にした。このことは反省点の一つではあるが、一方でポジティブに考えれば、圧倒的な展示ボリュームから、この国に堆積する太子信仰の厚みを体感してもらえたのではないだろうかとも思っている。

太子をめぐる造形の歴史は長く、作品は多く、しかもバリエーションに富み巧拙の差も大きい。巨人・太子に圧倒され、本展に際しては整理が追いつかなかった点もあるというのが正直なところだ。反省点は尽きないが、喜ばしいこともある。それは会期中一度も新型コロナウイルス感染症流行による閉館がなかったことである。

令和三年もコロナの流行が止むことはなく、美術館、博物館が自治体の判断に従い、展覧会が開幕しない、あるいは途中閉幕というこ

ともいよいよ驚かなくなったような年だった。

本展の開幕は九月四日のため、八月二日から九月三十日までの大阪府による緊急事態措置期間に会期の前半が重なってしまい、残念ながら来館者数が伸びない時期もあった。しかし、振り返ってみれば大阪会場、東京会場合わせてもコロナによる制限や中断がなく、会期を全うでき、大変にありがたいことであった。閉幕後、ご所蔵者や関係者とは、事あるごとに「太子のご加護」と口々に喜びと驚きの言葉を交わした。

世の中は目まぐるしく変っている。五十年後、百年後は、一体どのような太子展が開かれるだろうか。次の節目の年を楽しみに待ちたいと思う。

最後に、本展を開催するにあたり出展のご許可を賜ったご所蔵者はじめ、多大な支援をいただいた関係各位に心より御礼を申し上げます。
(石川温子)



チケット売場



最終日のエントランス

〈展覧会（大阪会場）概要〉

【名称】

千四百年御聖忌記念特別展 聖徳太子 日出づる処の天子

【会期】

二〇二一年九月四日（土）～十月二十四日（日）

休館日含む五十一日間、開館日四十六日

前期 九月四日～九月二十六日

後期 九月二十八日～十月二十四日

【主催】

和宗総本山四天王寺、大阪市立美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪

【後援】

公益財団法人 大阪観光

【協賛】

金剛組、損害保険ジャパン、高松建設、NISSHA、岩谷産業

【協力】

天王寺楽所 雅亮会

【助成】

令和三年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業、大阪文化芸術FES

【出品件数】

総件数 一八一件

うち国宝 八件、重要文化財 四十件

※重要文化財のうち、四天王寺舞楽所用具は一括として数えた

【チケット】

一般 一八〇〇円 一般前売券 一六〇〇円

高大生 一二〇〇円 高大生前売券 一〇〇〇円

【チケットの主な販売場所】

① オンラインチケット（特設サイト）

② チケットぴあ（Pコード：6851712）

③ ローソンチケット（Lコード：53902）

④ セブンチケット、イープラス、CNプレイガイド、主要コンビニエンスストア他

【音声ガイド】

利用料 一台 六〇〇円

所要時間 約三十五分

声優 鳥海浩輔氏

【図録】

販売価格 二八〇〇円（税込）

※大阪市立美術館オフィシャルショップ（ウェブ）で通信販売も行なった

【入場者数】

二九九二八人

【イベント】

① 四天王寺僧侶による絵解き法話

・日程 毎週土曜日（九月四日、十一日、十八日、二十五日、十月二日、九日、十六日、二十三日）

・時間 午前十一時～十一時三十分

※九月二十五日以降は一日二回行なった。二回目は十二時～十二時三十分。

- ・会場 一階講演会室
- ・定員 五十名（先着順）
- ※三十分前より整理券配布開始
- 申込不要・聴講無料

② 記念講演会

- ・日時 九月十一日（土）午後一時三十分～三時
- ・講師 和宗総本山四天王寺 勸学部長 南谷恵敬師
- ・テーマ 「四天王寺の聖徳太子信仰」
- ・会場 一階講演会室
- ・定員 五十名（先着順）
- ※三十分前より整理券配布開始
- 申込不要・聴講無料

③ 四天王寺での舞楽公演

- ・日時 十月十日（日）
- 午後三時三十分開演～五時終演（三時開場）
- ・会場 四天王寺 五智光院
- ・出演 天王寺楽所雅亮会
- ・演目 「振鉦」（合鉦）、「蘇利古」、「蘇莫者」、「長慶子」
- ・定員 五十名（先着順）
- ・備考 舞楽公演セット券（本展観覧料を含む。一般四〇〇〇円のみ）が必要

【広報方法（ネット）】

- ① 大阪市立美術館ウェブページ
 - ② ツイッター
 - ③ インスタグラム
 - ④ ウェブインフルエンサー特別内覧会
- ・日時 十月三日（日）午後五時三十分～七時三十分



四天王寺での舞楽公演



四天王寺僧侶による絵解き法話

出品目録

千四百年御聖忌記念特別展

聖徳太子

日出づる処の天子

2021年9月4日(土)ー10月24日(日)

大阪市立美術館

天王寺公園内 OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS

- ・本目録の掲載順と展示会場の展示順は必ずしも一致しません。
- ・また、本目録に掲載される作品がやむを得ない理由で予告なく展示を取りやめる場合があります。
- ・指定欄の●は国宝、◎は重要文化財であることを示します。
- ・展示会会期中に展示替えがあります。
- ・前期は9月4日から9月26日まで、後期は9月28日から10月24日までです。
- ・展示室内の温度湿度ならびに照明は作品保護を目的に管理しています。
- ・ご来館の皆様には理想的ではないと感じられる場合もあるかと思いますが、ご容赦ください。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示期間等内容に変更が生じる場合があります。

主催：和宗総本山四天王寺、大阪市立美術館、
日本経済新聞社、テレビ大阪

後援：公益財団法人 大阪観光局

協賛：岩谷産業、金剛組、損害保険ジャパン、
高松建設、NISSHA

協力：天王寺楽所 雅亮会

No.	指定	作品名	作者	員数	制作年代	所蔵者	9/4 -12	9/14 -20	9/21 -26	9/28 -10/3	10/5 -10	10/12 -17	10/19 -24
-----	----	-----	----	----	------	-----	------------	-------------	-------------	---------------	-------------	--------------	--------------

第1章 聖徳太子の生涯——太子の面影を追って

1	◎	聖徳太子絵伝	遠江法橋筆	6幅	鎌倉時代 元亨3年(1323)	大阪・四天王寺							
2		聖徳太子絵伝		8幅	[第1-7幅]南北朝時代 14世紀 [第8幅]江戸時代 19世紀	大阪・叡福寺							
3	◎	聖徳太子絵伝 第2-6幅		2幅(10幅のうち)	鎌倉-南北朝時代 14世紀	愛知・本證寺							
4		聖徳太子絵伝 甲・乙・丙幅		3幅	鎌倉-南北朝時代 14世紀	兵庫・香雪美術館							
5		聖徳太子絵伝(模写) 第1-5-7-9幅		4幅(10幅のうち)	平成26年(2014)	愛知・安城市歴史博物館							
6	◎	聖徳太子絵伝		4幅	鎌倉時代 14世紀	茨城・妙安寺							
7		聖徳太子絵伝		6幅	室町時代 15世紀	京都・華道家元池坊総務所							
8		聖徳太子絵伝		4幅	室町時代 15世紀	奈良・談山神社							
11		聖徳太子絵伝		3巻	江戸時代 18世紀	大阪・叡福寺		巻上		巻中		巻下	
12		聖徳太子絵伝断簡		1幅	南北朝時代 14世紀	茨城・善重寺							
13		聖徳太子伝		10帖	江戸時代 寛文6年(1666)	大阪・四天王寺				頁替			
14	◎	聖徳太子伝巻 巻上		1冊(4冊のうち)	鎌倉時代 元徳3年(1331)	大阪・武田科学振興財団春雨書庫						頁替	
15		聖徳太子伝巻		1冊	江戸時代 慶長11年(1606)	大阪・四天王寺							
16		聖徳太子二歳像(南無仏太子像)		1軀	南北朝時代 14世紀	大阪・四天王寺							
17		聖徳太子童形半跏像		1軀	南北朝時代 14世紀	大阪・四天王寺							
18	◎	聖徳太子摂政坐像	院恵・院道作	1軀	鎌倉時代 建治3年(1277)	奈良・達磨寺							
19	◎	聖徳太子勝鬘経講讀坐像		1軀	桃山時代 17世紀	兵庫・中山寺							
20	●	丙子椒林剣		1口	飛鳥時代 7世紀	大阪・四天王寺							
23		七星剣	月山貞一(二代)作	1口	昭和54年(1979)	大阪・四天王寺							
24	◎	鳴鏑矢		1隻	飛鳥時代 7世紀	大阪・四天王寺							
25	◎	漆皮箱		1合	奈良時代 8世紀	大阪・四天王寺							
26	◎	唐花文袍残欠(太子緋御衣)		2面(4面のうち)	飛鳥時代 7世紀	大阪・四天王寺				展示替			
27	●	懸守 ・松喰鶴文 ・桜折枝文		2懸(7懸のうち)	平安時代 12世紀	大阪・四天王寺		松喰鶴文			桜折枝文		
28		龍笛・高麗笛(京不見御笛)		2管	鎌倉時代 13-14世紀	大阪・四天王寺							
29	◎	細字法華経		1巻	平安時代 11世紀	大阪・四天王寺							
30	◎	十七条憲法	良是筆	1巻	鎌倉時代 嘉禎2年(1236)	大阪・四天王寺							
31		聖徳太子憲法十七箇条		1冊	桃山時代 17世紀	大阪・四天王寺							
32		隋書 巻第81		1冊(25冊のうち)	江戸時代 天保14年(1843)	大阪・関西大学図書館							
34		日本書紀 巻第22		1冊(15冊のうち)	江戸時代 文政13年(1830)	京都・大谷大学図書館							
36		法華義疏		1冊(4冊のうち)	江戸時代 天和2年(1682)	大阪・四天王寺					頁替		
37		維摩経義疏		1冊(3冊のうち)	江戸時代 17-18世紀	大阪・四天王寺					頁替		
38		勝鬘経疏詳玄記		1冊(13冊のうち)	江戸時代 寛文10-11年(1670-71)	大阪・四天王寺					頁替		
39		推古天皇像	土佐光芳筆	1幅	江戸時代 享保11年(1726)	大阪・叡福寺							
40		慧慈和尚坐像		1軀	平安時代 10世紀	山口・般若寺							

第2章 聖徳太子信仰の広がり——宗派を越えて崇敬される太子

41		聖徳太子二歳像(南無仏太子像)		1軀	鎌倉時代 13-14世紀	京都・白毫寺							
42		聖徳太子二歳像(南無仏太子像)		1軀	鎌倉時代 13世紀	愛知・清性寺							
44		聖徳太子童形立像		1軀	鎌倉時代 13-14世紀	奈良・長福寺							
45	●	三國祖師影(醍醐寺文書聖教)第151函(13号)		1巻	鎌倉時代 13世紀	京都・醍醐寺							

No.	指定 作品名	作者	頁数	制作年代	所蔵者	9/4 -12	9/14 -20	9/21 -26	9/28 -10/3	10/5 -10	10/12 -17	10/19 -24
46	聖徳太子童形像・童子像		1幅	南北朝時代 14世紀	金田肇							
47	聖徳太子童形坐像・二王子立像		3幅	平安時代 12世紀	兵庫・鶴林寺							
48	聖徳太子童形立像・二王子立像		3幅	鎌倉時代 13世紀	大阪・大聖勝軍寺							
49	◎ 聖徳太子童形像・二王子像・二天像		1幅	鎌倉時代 13世紀	兵庫・鶴林寺							
50	◎ 聖徳太子童形像・二王子像		1幅	鎌倉時代 13世紀	滋賀・観音寺							
51	聖徳太子童形立像(植髮太子)		1幅	鎌倉時代 13~14世紀	兵庫・鶴林寺							
52	◎ 髻漆厨子		1基	室町時代 永享8年(1436)	兵庫・鶴林寺							
53	聖徳太子生身供式		1冊	明治時代 19世紀	京都・大谷大学図書館							
54-1	◎ 聖徳太子童形立像	善春作	1幅	鎌倉時代 文永5年(1268)	奈良・元興寺							
54-2	◎ 聖徳太子童形立像 像内納入品 ①眼清願文 ②太子結線人名帳 ③尼願阿ミタ仏等結線安名 ④聖徳太子摺仏 ⑤聖徳太子千坏供養札		1式	鎌倉時代 文永5年(1268)	奈良・元興寺				展示替			
55-1	◎ 聖徳太子童形立像		1幅	鎌倉時代 弘安9年(1286)	大阪・通明寺							
55-2	◎ 聖徳太子童形立像 像内納入品 ①大般若経 第578・般若心経 ②十大受章・普賢十願・唯識三十頌・般若心経・略法華経		1式	鎌倉時代 弘安9年(1286)	大阪・通明寺				巻替			
56	◎ 聖徳太子童形像		1幅	鎌倉時代 14世紀	三重・四天王寺							
57	聖徳太子童形像		1幅	南北朝時代 14世紀	大阪・弘川寺							
58	◎ 聖徳太子童形像		1幅	南北朝時代 14世紀	京都・西本願寺							
59	聖徳太子童形立像(孝養像)		1幅	鎌倉時代 14世紀	東京・坂東観音寺							
61	聖徳太子童形像・四臣像		1幅	室町時代 15世紀	大阪・四天王寺							
64	聖徳太子摂政像		1幅	南北朝時代 14世紀	大阪・四天王寺							
65	聖徳太子摂政像・四天王像		1幅	室町時代 15~16世紀	大阪・舍利尊勝寺							
66	釈迦三尊十六羅漢図		3幅	室町時代 15世紀	奈良・発心院							
68	◎ 聖徳太子勝鬘経講讃図		1幅	鎌倉時代 13世紀	兵庫・斑鳩寺							
69	◎ 聖徳太子勝鬘経講讃図		1幅	鎌倉時代 13世紀	三重・西来寺							
70	聖徳太子勝鬘経講讃図		1幅	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
71	聖徳太子勝鬘経講讃図		1幅	鎌倉時代 14世紀								
72	聖徳太子勝鬘経講讃図		1幅	室町時代 15世紀	兵庫・中山寺							
73	伝述一心戒文 巻中・下		2冊(3冊のうち)	江戸時代 寛永15年(1638)	京都・大谷大学図書館		巻中				巻下	
74	菩薩半跏像		1幅	白鳳時代 7世紀	滋賀・延暦寺							
75	日本高僧伝要文抄 巻第3		1冊	江戸時代 文政9年(1826)	京都・大谷大学図書館							
76	聖徳太子童形像・二童子像		1幅	鎌倉時代 13~14世紀	山形・慈光明院							
77	聖徳太子童形像・二童子像		1幅	室町時代 15世紀	奈良・薬師寺							
78	◎ 四天王寺聖霊院願文案	慈円筆	1巻	鎌倉時代 貞応3年(1224)	京都・青蓮院							
79	拾玉集 巻第3・4		2冊(5冊のうち)	室町時代 文明3年(1471)	京都・青蓮院		巻第3				巻第4	
80	慈鎮和尚歌入消息文	慈円筆	1幅	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
81	初心頓覚鈔		1冊	江戸時代 慶安2年(1649)	京都・龍谷大学図書館							
82	善慧上人縁起 巻第4		1巻(6巻のうち)	室町時代 享祿4年(1531)	兵庫・浄橋寺							
83	夢中顯現太子曼荼羅図		1幅	室町時代 15世紀	愛知・西照寺							
84	蓮華形舍利容器		1具	鎌倉時代 建暦元年(1211)	大阪・叡福寺							
85	皇太子聖徳奉讃 第16首	親鸞筆	1幅	鎌倉時代 建長7年(1255)	京都・龍谷大学図書館							
86	皇太子聖徳奉讃 第65・66首	親鸞筆	1帖	鎌倉時代 建長7年(1255)	石川・本誓寺							
87	阿弥陀如来像・三国浄土高僧蓮坐像		3幅	室町時代 15~16世紀	大阪・四天王寺							
88	光明本尊		1幅	室町時代 大永2年(1522)	大阪・慧光寺							
89	阿弥陀如来并十二光仏像・善導大師像・ 聖徳太子勝鬘経講讃像		3幅	室町時代 16世紀	茨城・喜八阿弥陀堂							
90	◎ 聖徳太子絵伝 第1~4幅		4幅(8幅のうち)	南北朝~室町時代 14~15世紀	兵庫・鶴林寺							
91	善光寺如来絵伝		4幅	室町時代 15世紀	愛知・満性寺							
92	聖徳太子絵伝 第2・5幅		2幅(5幅のうち)	室町時代 15世紀	石川・本誓寺		第2幅				第5幅	
93	法然上人絵伝		6幅	室町時代 15世紀	愛知・満性寺							
94	法然上人絵伝	隆円筆	3幅	南北朝時代 建武5年(1338)	広島・光照寺							
95	親鸞聖人絵伝	隆円筆	1幅	南北朝時代 建武5年(1338)	広島・光照寺							
98	聖法輪藏 第1・3・5・7・22帖 (47帖のうち)	寂玄筆	5帖	室町時代 永祿2年(1559)	愛知・満性寺							
99	聖徳太子内因曼陀羅		1冊	鎌倉時代 正中2年(1325)	愛知・満性寺							
100	聖徳太子絵伝(略絵伝)		1幅	室町時代 15世紀	愛知・満性寺							
101	聖徳太子絵伝(略絵伝)		1幅	室町時代 15世紀	大阪・四天王寺							
102	● 一遍聖絵 巻第2	円伊筆	1巻(12巻のうち)	鎌倉時代 正安元年(1299)	神奈川・清浄光寺(遊行寺)							
103	一遍聖絵(模写) 巻第2・8	竹内隆隆筆	2巻(12巻のうち)	明治43~大正6年(1910~17)	京都国立博物館		巻第2				巻第8	
104	厨子入 聖徳太子坐像		1幅	鎌倉時代 永仁3年(1295)	東京国立博物館							

No.	指定 作品名	作者	頁数	制作年代	所蔵者	9/4 -12	9/14 -20	9/21 -26	9/28 -10/3	10/5 -10	10/12 -17	10/19 -24
第3章 大阪・四天王寺の1400年——太子が建立した大寺のあゆみ												
105	● 四天王寺縁起(根本本)		1巻	平安時代 11世紀	大阪・四天王寺							
106	● 四天王寺縁起(後醍醐天皇宸翰本)		1巻	南北朝時代 建武2年(1335)	大阪・四天王寺							
107	四天王寺別当次第		1巻	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺						巻替	
108	聖徳太子講式	西順筆	1巻	江戸時代 元文3年(1738)	大阪・四天王寺						巻替	
109	◎ 四天王寺境内出土瓦 ①無子葉弁八葉蓮華文軒丸瓦 西大門東出土 ②年号文軒丸瓦 中門南西出土 ③三巴文軒丸瓦 中門北東出土 ④五七桐文軒丸瓦 新納骨堂裏出土 ⑤丸瓦 五智光院所用 ⑥丸瓦		6個	①飛鳥時代 7世紀 ②平安時代 治安元年(1021) ③鎌倉時代 13世紀 ④桃山時代 文祿3年(1594)頃 ⑤江戸時代 元和6年(1620) ⑥江戸時代 寛文10年(1670)	大阪・四天王寺							
110	◎ 聖徳太子絵伝(旧繪堂壁画)	狩野山楽筆	16面	江戸時代 元和9年(1623)	大阪・四天王寺							
111	太子伝玉林抄 巻第1		1冊(17冊のうち)	江戸時代 享保12年(1727)	京都・大谷大学図書館							
112	聖徳太子御一生記絵抄		3冊	江戸時代 安政2年(1855)	大阪・四天王寺						頁替	
113	聖徳太子絵伝	橋保春筆	6面	江戸時代 文化10年(1813)	大阪・四天王寺		1・2・3面				4・5・6面	
114	◎ 別尊雜記 巻第47		1巻(57巻のうち)	平安時代 12世紀	京都・仁和寺							
115	別尊雜記 巻第47断簡		1紙	鎌倉時代 14世紀	大阪・四天王寺							
116	四天王立像		4軀	平安～鎌倉時代 12世紀	大阪・大聖勝軍寺							
117	四天王立像		4軀	平安～桃山時代 12～16世紀	宮城・天王寺							
118	◎ 菩薩半跏像(試みの観音)		1軀	白鳳時代 7～8世紀	大阪・四天王寺							
119	◎ 別尊雜記 巻第18		1巻(57巻のうち)	平安時代 12世紀	京都・仁和寺							
120	別尊雜記 巻第18		1巻	鎌倉時代 元亨元年(1321)	大阪・四天王寺							
121	◎ 救世観音半跏像		1軀	鎌倉時代 寛元4年(1246)	京都・三千院							
122	如意輪観音半跏像		1軀	平安～桃山時代 12～16世紀	宮城・天王寺							
124-1	如意輪観音坐像		1軀	鎌倉時代 建治元年(1275)	奈良国立博物館							
124-2	如意輪観音坐像 像内納入品 ①般若心経 ②修理銘		1式	①鎌倉時代 建治元年(1275) ②江戸時代 寛永2年(1625)、 天保13年(1842)	奈良国立博物館						展示替	
125	如意輪観音坐像		1軀	鎌倉時代 14世紀	東京国立博物館							
127	如意輪観音坐像		1軀	鎌倉時代 13世紀	茨城・観音寺							
128	舍利容器(五重塔心礎出土)		1基	江戸時代 文化10年(1813)頃	大阪・四天王寺							
129	◎ 弥勒菩薩画像集		1帖	平安時代 12世紀	京都・仁和寺							
130	弥勒菩薩画像集(別尊雜記 巻第28紙背)		1巻	鎌倉時代 延慶3年(1310)	大阪・四天王寺							
131	聖徳太子童形像・二臣像		1幅	室町時代 15世紀	兵庫・香雪美術館							
132	◎ 如来五尊像		1幅	鎌倉時代 13世紀	大阪・風輪寺							
133	聖徳太子絵伝断簡		1幅	南北朝時代 14世紀	大阪・四天王寺							
134	西念所持四天王寺西門浄土信仰関係資料 ①供養目録 ②供養目録 ③極楽願往生歌 ④誓	①～③西念筆	1式	①平安時代 保延6年(1140) ②平安時代 永治2年(1142) ③平安時代 康治元年(1142) ④平安時代 12世紀	東京国立博物館						展示替	
135	摂津国四天王寺図	楠守国筆	3幅	江戸時代 18世紀	大阪・四天王寺							
137	◎ 法然上人行状絵巻 巻第16		1巻(48巻のうち)	室町時代 15世紀	奈良・當麻寺奥院							
138	聖観音立像		1軀	江戸時代 寛文10年(1670)	大阪・施行院							
139	太子御記文断片		1面	平安時代 11世紀	大阪・叡福寺							
140	太子未來記伝義	依 楠木正成筆	1巻	江戸時代 18世紀	大阪・四天王寺						巻替	
141	四天王寺図屏風		6曲1隻 (6曲1反のうち)	江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
142	四天王寺図屏風		6曲1隻 (6曲1反のうち)	江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
144	御再建金堂図	金剛喜定筆	1幅	江戸時代 19世紀	大阪・金剛組							
145	四天王寺五重宝塔図	金剛よしと筆	1幅	昭和15年(1940)	大阪・金剛組							
146	● 扇面法華経冊子		3帖(5帖のうち)	平安時代 12世紀	大阪・四天王寺		観音賢経(頁替)			巻第6	無量義経	
147	◎ 扇面法華経冊子断簡		1枚	平安時代 12世紀								
148	◎ 銀製舍利塔・金銅外容器		1具	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
149	● 金銅威奈大村骨蔵器		1合	白鳳時代 慶雲4年(707)	大阪・四天王寺							
150	◎ 阿弥陀如来坐像・兩脇侍立像		3軀	平安時代 9世紀	大阪・四天王寺							
151	阿弥陀三尊立像(円浮檀金弥陀)		3軀	阿弥陀:室町時代 15世紀 観音:鎌倉時代 13世紀 勢至:鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
152	◎ 銀鍍金光背		1面	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
153	◎ 千手観音二天箱仏		1基	平安時代 12世紀	大阪・四天王寺							
154	厨子入 地藏菩薩立像・阿弥陀如来立像		2軀	地藏:江戸時代 17世紀 阿弥陀:平安時代 12世紀 厨子:江戸時代 貞享4年(1687)	大阪・四天王寺							
155	聖徳太子童形像		1幅	江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
156	聖徳太子摂政像・二王子像		1幅	江戸時代 貞享3年(1686)	大阪・叡福寺							
157	勝鬘夫人坐像		1軀	江戸時代 元禄7年(1694)	大阪・愛染堂勝鬘院							
158	虎像	依 左甚五郎作	1軀	江戸時代 19世紀	大阪・四天王寺							

No.	指定 作品名	作者	員数	制作年代	所蔵者	9/4 -12	9/14 -20	9/21 -26	9/28 -10/3	10/5 -10	10/12 -17	10/19 -24
第4章 御廟・叡福寺と大阪の聖徳太子信仰——太子が眠る地												
159	叡福寺境内古絵図		2曲1双	江戸時代 17世紀	大阪・叡福寺							
160	上太子叡福寺境内惣絵図		1幅	江戸時代 元禄元年(1688)	大阪・叡福寺							
161	河内国上ノ太子磯長山御廟開扉正面縮図		1紙	江戸時代 18世紀	大阪歴史博物館							
162	五ノ所御廟之絵図		1紙	江戸時代 享保17年(1732)	大阪・叡福寺							
166	◎ 弥勒菩薩半跏像		1軀	白鳳時代 丙寅年(666)	大阪・野中寺							
167	青龍山野中律寺諸堂像目録		1巻	江戸時代 元禄12年(1699)	大阪・野中寺							
168	聖徳太子童形倚坐像		1軀	江戸時代 18～19世紀	大阪・野中寺							
169	聖徳太子童形立像(緋髪太子)・四天王立像摺仏		1枚	江戸時代 19世紀	大阪・四天王寺							
170	馬上太子像	伝 細川氏綱筆	1幅	桃山時代 16～17世紀	大阪・叡福寺							
171	馬上太子像		1幅	江戸時代 19世紀	大阪・大聖勝軍寺							
172	◎ 大寺縁起 巻上	土佐光起筆	1巻(3巻のうち)	江戸時代 元禄3年(1690)	大阪・開口神社							
173	法起菩薩曼荼羅図	清賢筆	1幅	室町時代 15世紀	大阪・高倉寺							
174	聖徳太子絵伝	長谷川永信筆	4幅	江戸時代 寛文4年(1664)	大阪・大聖勝軍寺	第1-2幅				第3-4幅		
175	聖徳太子絵伝 第3-10幅		2幅(10幅のうち)	室町時代 15～16世紀	大阪・杭全神社	第3幅				第10幅		
176	伝聖徳太子坐像		1軀	平安時代 9～10世紀	大阪・若山神社							

第5章 近代以降の聖徳太子のイメージ…そして未来へ——つながる祈り

177	聖徳太子勝鬘経講讃図	巨勢小石筆	1幅	明治26年(1893)	東京国立博物館							
178	聖徳太子勝鬘経講讃坐像	田中主水作	1軀	明治44年(1911)	大阪・四天王寺							
179	聖徳太子童形坐像	新納忠之介作	1軀	昭和時代 20世紀	大阪・四天王寺							
180	聖徳太子坐像	佐藤朝山作	1軀	大正8年(1919)	東京国立博物館							
181	聖徳太子像・二王子像(模写)	堂本印象筆	1幅	大正～昭和時代 20世紀	京都府立堂本印象美術館							
182	日本銀行券 ①日本銀行券乙二百円 ②日本銀行券い百円 ③日本銀行券ろ百円 ④日本銀行券A百円 ⑤日本銀行券B千円 ⑥日本銀行券C五千円 ⑦日本銀行券C老万円		7枚	①昭和5年(1930)②昭和19年(1944) ③昭和20年(1945)④昭和21年(1946) ⑤昭和25年(1950)⑥昭和32年(1957) ⑦昭和33年(1958)	東京・国立印刷局 お札と切手の博物館							
183	旧最高裁判所大法廷壁面 小下絵	堂本印象筆	3紙	昭和26年(1951)	京都府立堂本印象美術館							
184	日出処の天子原画 [LaLa]扉より ①法隆寺観音と聖徳太子 ②月 ③迦陵頻伽 ④桜 ⑤鐘 ⑥剣 日出処の天子(完全版)より ⑦第2巻P.140 ⑧第2巻P.154 ⑨第2巻P.192-P.193 ⑩第2巻P.194 ⑪第3巻P.84 ⑫第4巻P.316 ⑬第4巻P.318 ⑭第4巻P.320 ⑮第4巻P.323 ⑯第5巻P.324 ⑰第5巻P.325 ⑱第6巻P.4 ⑲第6巻P.13 ⑳第6巻P.14 ㉑第7巻P.194 ㉒第7巻P.195	山岸涼子作	カラー6紙、 モノクロ16紙	昭和55～59年(1980～84)		①-②-⑦-⑧- ⑨-⑩-⑪-⑫- ⑬-⑭	⑬-⑭-⑮-⑯- ⑰-⑱-⑲-⑳- ㉑-㉒	⑤-⑥-⑮-⑯- ⑰-⑱-⑲-⑳- ㉑-㉒				
185	聖徳太子童形半跏像	松久宗琳佛所作	1軀	令和3年(2021)	大阪・四天王寺							
186	聖徳太子摂政像(楊枝御影)		1幅	鎌倉時代 14世紀	大阪・四天王寺							
187	鳳簾		1基	桃山～江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
188	玉輿		1基	江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
189	◎ 舞楽面 蘭陵王		1面	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
190	舞楽面 蘭陵王		1面	桃山時代 慶長17年(1612)	大阪・四天王寺							
191	◎ 舞楽面 納蘇利		1面	鎌倉時代 13世紀	大阪・四天王寺							
192	舞楽面 納蘇利		1面(2面のうち)	江戸時代 17世紀	大阪・四天王寺							
193	四天王寺舞楽所用具 菩薩 ①面 ②髻 ③光背			①1面(2面のうち) ①②江戸時代 17世紀 ②1髻(2面のうち) ③江戸時代 元禄12年(1699) ③1基(2基のうち)	大阪・四天王寺							
194	四天王寺舞楽所用具 獅子 四天王寺舞楽所用具 迦陵頻伽		1頭(2頭のうち)	江戸時代 元和9年(1623)	大阪・四天王寺							
195	◎ ①天冠 ②羽根 ③袍			①1頭(4頭のうち) ②1枚(4枚のうち) ③1領(8領のうち) 桃山～江戸時代 16～17世紀 平成12年(2000)	大阪・四天王寺							
196	◎ ①天冠 ②羽根 ③袍			①1頭(4頭のうち) ②1枚(4枚のうち) ③1領(8領のうち) 桃山～江戸時代 16～17世紀 平成13年(2001)	大阪・四天王寺							
197	◎ 四天王寺舞楽所用具 太平楽 ①袍 ②挂甲 ③兜 ④胡籥 ⑤肩咲 ⑥太刀 ⑦帯咲 ⑧魚袋			①2領(3領のうち) ①桃山～江戸時代 16～17世紀 ②2領(4領のうち) ③桃山時代 慶長17年(1612) ④2頭(4頭のうち) ⑤2双(4双のうち) ②④⑤⑥⑦⑧桃山時代 16～17世紀 ⑥2口(4口のうち) ⑦2箇(4箇のうち) ⑧2佩(4佩のうち)	大阪・四天王寺	展示替						
200	四天王寺舞楽所用具 蘇莫者 ①面 ②袍 ③福襦 ④髻			①1面 ①昭和時代 20世紀 ②③1領 ②昭和59年(1984)③平成11年(1999) ④1本 ④昭和時代 20世紀	大阪・四天王寺							
201	◎ 四天王寺舞楽所用具 陪隨 福襦		1領(4領のうち)	桃山～江戸時代 16～17世紀	大阪・四天王寺							
202	◎ 四天王寺舞楽所用具 鳥甲(右方)		1頭(4頭のうち)	桃山～江戸時代 16～17世紀	大阪・四天王寺							
203	四天王寺舞楽所用具 蘇利古 雑面		1枚	平成21年(2009)	大阪・四天王寺							